

そうだったの!?

言葉や国語について考えるこの欄は、リニューアルした2012年夏号から始まった。
文化庁の「国語に関する世論調査」などを参考にしている。

「小春日和」

♪こんな小春日和の穏やかな日は、あなたの優しさがしみてくる…。山口百恵さんが歌った『秋桜』（コスモス）の一節だ。嫁ぐ前、母との束の間のだんらん、感じる母のぬくもり…。さだまささんの楽曲である。

小春とは旧暦10月の異称で、新暦では11月から12月上旬にあたり、そのころの暖かい晴れた日をいう。春先に使うのは誤り（産経新聞社記者ハンドブック）。

寒い日が続くと時折の穏やかな日差しがありがたい。この気持ちは世界

共通のようで米国では「インディアンサマー」と言う。「北アメリカで晩秋から初冬にかけての穏やかな暖かい日和。また、落ち着いた人生の晩年にたとえていう」（大辞泉）。

他国ではどうだろうか。ロシアでは「女の夏」と呼ぶようだ。欧州全域に「老婦人の夏」という表現があるとも聞く。老婦人は人生の晩年をいうのだろうか。日本と違って穏やかなのが「夏」というのがお国柄。日本でも沖縄は「小夏日和」と表現する。

名曲秋桜は1977年10月にリリース

された。35年前なのに、今でも口ずさむ人は多い。

学生にとって親御さんが中高生のころのヒット曲か。♪こんな小春日和が…。いろいろな意味を持つなんて知らなかった。



電子書籍アプリ『白門書房』

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、日本の大学初の電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。Apple Inc. が運営するiPhone、iPad touch、iPad向けソフトウェアのダウンロードサービスであるApp Store（アップストア）から『白門書房』をダウンロードします。Appストアへは、無線LAN（Wi-Fi）を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』をダウンロードすると、あらかじめ本欄に収められている大学案内他4冊の広報誌を読むことがで

きます。ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、3GやWi-Fiを通じて「ストア」にアクセスし、何冊でもダウンロード可能です。

なお現在、Android版も開発中であり、近々デザインを大幅に変更してリニューアルを予定しています。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、電子書籍出版社である想隆社が開発したものであり、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>

